

患者さまへ

「小児がんに対する当院の放射線治療

（強度変調放射線治療、陽子線治療）の治療成績と有害事象」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2011年4月～2029年3月に当院放射線腫瘍科で当院の放射線治療（強度変調放射線治療（IMRT）、陽子線治療（PBT））を受けた/る小児がんの方
2 研究目的・方法	<p>小児がんは、治療法の進歩により治癒の可能性が高くなり、長期生存が得られるようになってきました。その一方で長期生存者が増えるにしたいが、抗がん薬や放射線治療等による晩期障害（治療後、長期間が経過してから現れる副作用）が多く認められ問題になってきました。当院のIMRTという照射方法は照射中に放射線の強さに強弱をつけ、病変に対して集中的に照射を行うことができ、正常臓器への放射線量を低減できる方法で、PBTは陽子線の特性から、さらに腫瘍周囲への放射線量を低減させることができる方法のため、従来の放射線治療と比較して晩期有害事象を低減できる可能性が高い治療法となっています。</p> <p>そこで本研究では当院で小児がんに対し放射線治療（IMRT、PBT）を受けた患者さまの生存率、再発率、副作用について調査します。また小児がんの病期、画像所見、血液データ、病理所見、放射線治療に関係したデータなどのうち何が生存率、再発率や副作用に影響を及ぼしているのか調査し、今後の治療に役立てます。</p> <p>研究の期間：施設院長許可（2024年9月）後～2029年9月</p>
3 情報の利用拒否	<p>情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまのご家族等で患者さまの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。</p>
4 研究に用いる情報の種類	年齢、病歴、小児がんの病期、画像所見、手術所見、病理所見、血液データ、放射線治療後の経過 等
5 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 大村素子 湘南鎌倉総合病院 放射線腫瘍科 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号：0467-46-1717</p>